

「生命の科学」第7課 宇宙的記憶

- ☆ 記憶を持たない人はいません。
記憶とは、生活を続ける為に不可欠なものです。
しかし、ほとんどの人が様々な人生から得た過去の体験を思い出さないのは、獲得した重要な価値ある物事を記憶する方法をマインドが全く学ばなかった為です。

- ☆ 人間は宇宙的な記憶を養わない限り何もならないのです。

- ☆ 意識は唯一の、真のあなたの永遠なる部分であるからです。
そして、意識の中にこそあらゆる行動が記憶されているのです。
意識の中に自己のマインドを融合させない限り、人は本体を失います。
しかし、宇宙の意識と同調して現在のエゴのマインドに埋没していた個人の本体を見つける事が出来る人もいます。

- ☆ 人間は二つの魂を持ちます。
センス・マインドの魂と意識の魂の二つです。

- ☆ 記憶は生命を永続させる為に不可欠なものであると分かります。

- ☆ 意識とマインドを融合する為には、センス・マインドは神を信頼する様に意識を信頼しなくてはなりません。
そして、それには時に盲目的というほど強い信念が必要です。

- ☆ 生命の宇宙的記憶を保とうとするのならば、意識を通して見る重要性を理解をする事、即ち、センス・マインドを意識と共に働かせる事を知る必要があります。

- ☆ 日常生活において、ある程度宇宙的な生命をマインドが認識する様に訓練する必要があります。
これには二つの状態を通して行う事が出来ます。
第一に宇宙の記憶を読み取る事が巧みな人による場合。
第二に意識を認める事によってあなたのセンス・マインドに意識がもたらす印象を伝える様にする場合です。
しかし、それにはマインドが意識を信頼する必要がある、この二つが融合し

た時に印象が伝えられます。

そうすれば、あなたは宇宙の因とそれに関連した結果に十分に気付いて生きる事になるでしょう。

- ☆ 生命の宇宙的な概念を得る為に必要な事は、心が意識を通して気付く能力を拡大する事に尽きます。

これによって、マインドと意識の両面で、行動においてより覚醒した状態になるのです。

- ☆ 意識とマインドが融合して働くと、結果は優れたものになります。

以上は前に述べた事の繰り返し思われるかも知れませんが、反復は記憶になります。

- ☆ ここで生活を共にする二人を適切な例として取り上げます。

二人は各々の生き方と習慣を持つ個別の存在です。

しかし、共に生活し、何年か経過すると、互いの習慣を取り入れるのみならず、互いに似てきます。

それは、二人があたかも一体であるかの様に感じ始めるからです。

犬や猫のペットでさえ、飼い主の人格をまねる場合があります。

従って、常に思い出す人・物が有る場合にはそれが自動的な現象となり、フォームは記憶のパターンに基づいて行動するゆえに、思い出す為の努力は必要なくなります。

理解すべき最も重要な事は、パターンとはフォームの個性に作り直される点です。

- ☆ 一方、これは大勢が同じパターンを用いる場合、一人が代表となる時にも起こる現象です。

これは神、即ち意識が万物を包括している事を表しています。

そして、二人の人物が親しく交わり、一体化し互いに似てくると同様に、エゴの代わりに神の言語で思考すると、人は神と一体化し神に似てくるのです。

しかし、本人の個性は保たれたままです。

以前との違いは、いわゆる神、即ち覚醒状態にある意識とセンス・マインドが融合している点です。

- ☆ センス・マインドは通常の仕事を以前と同様に遂行する事が出来ますが、意

識の存在に常に気付いています。

そして、この意識は結果の世界で賢明に働く為にマインドにパワーと英知を与えているのです。

この状態に至ると“私がなすのではなく父が私を通して全ての事を行うのだ”とイエスが言った時に感じた様にマインドは感じるでしょう。

これが宇宙の意識です。

☆ 宇宙的な記憶を養う為に性急になってはいけません。

短気は法則の誤用を生むからです。

意識は永久不変である事を忘れてはなりません。

☆ 《神の目・即ち意識》

意識こそ真のあなたなのです。

意識は又、創造物全ての内奥に存在する“基本的なパワー”です。

そして、精神世界において最も重要な部分です。

センス・マインドは生命を継続する為に体験を記憶しなければなりません。

しかし、意識が生活における全行動を記憶するものである為、センス・マインドが意識と無関係であると記憶は永遠ではなく短いものとなります。

しかし、前述の通り、意識と融合する事によって永遠になるのです。

☆ いかにして宇宙の意識を養う事が出来るでしょうか。

その方法は学校で何かを記憶する場合と同じであり、センス・マインドに十分に印象付けたとあなたが確信するまで反復するのです。

☆ あなたを混乱させる様な固定観念に心を囚われてはいけません。

今まで心で習慣的に受けていた反応と同じものを期待してはいけません。

なぜなら、あなたは一輪の花の生命に気付く様になると、同時に結果である花を生じた英知の存在にも気付く様になるでしょう。

花は音声という形では話しませんが、英知に語りかける英知として反応するでしょう

あなたは万物に対してこれと同じ方法で話かける事が出来ます。

なぜなら、この時あなたは、単にフォームをフォームとして認識するのみではなく、フォームを通して表現される英知を認めているからです。

☆ 常にあなたは英知あるフォームに意識によって話かけている事を忘れてはなりません。

ひとたびこれを為し得ると、センス・マインドと意識を融合させるのみならず、記憶も養うことになります。

☆ フォームのタイプに関わらず、あなたは人間に対する場合と同じ様に確信を持って行動すべきです。

そして、あなたのフィーリングや行為に疑念を抱いてはいけません。
フィーリングとは覚醒を気付いている状態であり、意識からもたらされる印象としてのフィーリングは明確なはずです。

☆ 訓練とは出来る限り日々これを実行することです。

☆ 古い習慣というのは良き習慣の中に吸収されるまで、常にあなたの行く手にある事を忘れないで下さい。

そして、あなたが、どこに行き何を見、何を行おうと、万物の内奥に存在する宇宙の生命と英知に気付く様にしなさい。

あなたと同様に、宇宙の生命と英知から逃れられるものは何一つありません。

なぜなら、宇宙の中で最小の分子でさえも、あらゆる他のフォームと同じ様に英知ある存在であり、活動し創造された目的を果たしているからです。肉眼では分子を見る事は出来ませんが、あなたの意識の目は見る事が出来ます。

☆ マインドの創造者はマインドではなく、宇宙の意識がマインドの創造者です。

故に、センス・マインドが意識と融合すると、創造したマインドを意識は訂正する事も完全に機能する事も出来ます。

老化はセンス・マインドの概念であり、払拭出来ます。

第7課 以上